
教育研究上の目的

健康栄養学科では、栄養学を基礎として、運動の分野および食文化の分野に関する専門的知識や技術を修得するとともに、すべての人が生涯にわたり心身ともに健康で、自らの人生を主体的に設計し活躍していくための支援や相談を担う技能と態度を備え、さらに社会の中で健康生活を推進できるリーダーシップを有した人材の養成を、教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材養成の基本方針とする。

1. 栄養学を基礎とし、運動と食文化に関する専門的知見と技能を備え、健康管理・健康教育を実践できる
2. エビデンスに基づく食・栄養・運動に対する識見を備えている
3. 人々の幸福な生活のために、食・栄養・運動の側面から支援や相談を担う態度と専門性を具備している
4. 健康生活を推進していくための企画立案力・実践力を有し、多様な人々とのつながりや協働を生み出す資質を備える
5. 人生100年時代において、誰もが健康で活力ある生活を送る社会実現に貢献できる

そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する

①知識・技能

1. 栄養士として必要な、基礎的知識および技能を身につけることができる
2. 実験・実習をとおして理解した専門的知見を健康づくりの実践に活かすことができる
3. 健康づくりに関わる食生活や運動の指導するためのコミュニケーション能力を身につけることができる

②思考力・判断力・表現力

1. 栄養学を基礎として、運動や食文化に関わる情報を収集し、科学的な根拠をもとに的確に判断、評価できる
2. 健康に関わる問題に対して論理的に思考し、行動できる
3. 他人の考えに協調し、相互理解するとともに、自分の考えをもとに自己を表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 常に食生活や運動に関心を持ち、健康に関して意欲的に学び続けることができる
2. 広い視野で社会の変化を捉え、問題点を把握し、解決策を立案することができる
3. 健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科では、栄養士養成を基盤として、運動と食文化の分野における専門知識や技能を身につけ、理解することにより、すべての人々が心身ともに健康で活力ある幸福な生活を送る【健康】のために、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる人材を育成することが教育研究上の目的である。

このことを実現するための教育課程の編成方針は次のとおりである。

1. 栄養士養成の教育課程を基盤とし、運動や食文化の専門知識や技能を展開、統合して、社会の健康づくりに貢献できる人材育成のためのカリキュラムを編成する

2. 栄養領域では、健康づくりのスペシャリストとしての動機づけと意識を高めるための入門科目と、講義や実験・実習、校外実習科目を通して栄養学の基礎的知識と技術を修得し、栄養士として必要な資質や能力を培う
3. 健康運動領域・食文化領域では、演習、実技などの多様な科目を展開することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける
4. 栄養領域、食文化領域を展開、統合させ、総合的理解とキャリア意識の醸成を図る教育課程の編成とする

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆栄養領域

1. 栄養士として必要な基礎的知識と技能を修得させ、コミュニケーション能力を用いて健康づくりを実践させる
2. 栄養学を基礎として、健康に関わる情報を科学的な根拠を元に判断し、自分の考えをもとに自己表現する能力を育成する
3. 広い視野で社会の変化を捉え、健康に関して意欲的、継続的に学び、健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々との協働を生み出す力を養う

◆健康運動領域

1. すべての人々が生涯を通じて健康づくりのために必要な運動とその指導の基礎的知識と技術を修得させる
2. 運動と栄養に関わる問題を論理的に思考し、その対象に合った適切な運動プログラムを作成し、プレゼンテーション能力を育成する
3. 子どもから高齢者まで、あるいは障害者、アスリートなどすべての人々に対して、運動を通して、相互に関わりながら、幅広く主体的に健康支援できる力を養う

◆食文化領域

1. 食文化に関する基礎的知識の理解と多彩な料理や食事のスキルを修得させ、健康づくりのために必要な食生活の支援ができる力を養う
2. 食生活を栄養科学的、感性的、文化的に捉え、総合的に理解し、食の多様性や奥深さ、異文化への見識を深め、健康づくりの食を表現、発信する能力を育成する
3. 社会における食の役割を理解させ、実践活動と結びつけるために、深い洞察力、良識ある判断力、豊かな想像力を涵養し、人々の健康づくりに協働性をもって貢献できる能力を総合的に身につけさせる

◆演習

1. 健康づくりにかかわる実践的研究を体験し、学びに関心を持たせる
2. 栄養学を基礎として、運動や食文化に関わる研究の進め方を理解し、自ら見出したテーマに沿って研究を行わせる
3. 健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々とのつながりや協働を生み出す姿勢を養う

◆卒業研究

1. 健康づくりにかかわる実践的研究を体験し、学びに関心を持たせる
2. 栄養学を基礎として、運動や食文化に関わる研究の進め方を理解し、自ら見出したテーマに沿って研究を行わせる
3. 健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々とのつながりや協働を生み出す姿勢を養う

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学科では、次のような学生を求める。

1. 栄養・運動・食文化に強い関心を持っている
2. 健康に関する諸問題を、運動や食文化から考察し、まとめ、伝えることができる
3. 豊かな感性をもって健康的な生活を思考・実践できる人
4. 多様な人々と協働し、社会の健康づくりや社会の健康づくりに貢献したいという意欲がある人

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 栄養士として必要な知識を理解するための基礎的学力を有し、健康づくりに生かす能力を身につけたい意欲がある人
2. 五感を生かした非言語コミュニケーションに興味を持ち、積極的に鍛えようとする人
3. すべての人に対して健康づくりに役立つコミュニケーション能力を向上させる意欲がある人

②思考力・判断力・表現力

1. 資料（文章・データ等）から課題や問題点を考えることができる
2. 課題や問題点に対する解決策の必要性を判断できる
3. 他者の意見を取り入れながら自分の考えを表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 課題に対して自分で考え、行動することができる
2. 集団の中で他者の意見を共感、理解しながら物事をまとめることができる
3. 多様な人々と協働して取り組むことができる